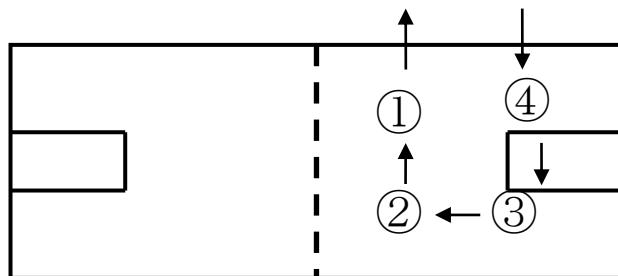


ビーチボールバレーのルール(飯高)

2018年11月一部修正

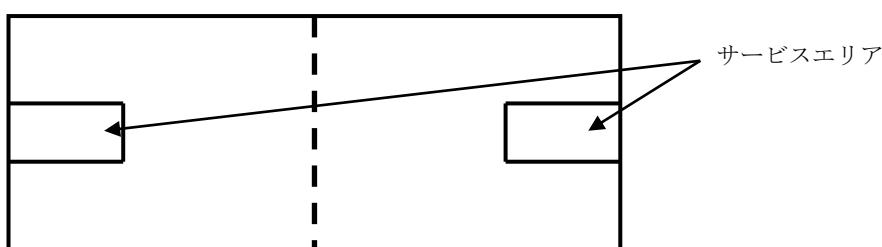
競技方法

- コートは、バドミントンダブルスコートを使用します。
- ネットは、バドミントン用を使用します。高さは185cmとする。
- ボールは、ビーチボール(直径約40cm)を使用します。
- 得点は、ラリーポイント制、決められた時間内で多く得点したチームの勝ちとする。
- 整列後、主審の合図により主将同士がネット間で挨拶をし、ジャンケンでサーブ権とコート権を選ぶか決めます。一方のチームがサーブ権を取った場合は、相手チームにコート権が与えられます。
- コート権を得たチームは、どちらのコートで試合をするか主審に申し出ます。(サーブ権を取ったチームは、相手チームよりコートチェンジの申し出があった場合、拒否はできません。)
- 1チーム4人～6人とし、全員での時計回りローテーションとする。
- 審判(主審、副審、線審)は、相互審判により行う。



サーブ

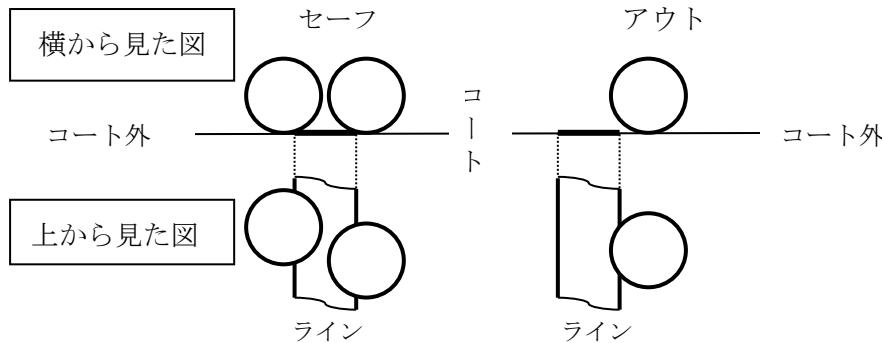
- サーブはサービスエリア内から打ちます。
- サーブ開始の吹笛の後、空振りをした場合はサーブ失敗となり、サーブ権が移行します。
- サーブは右後方の位置にいる人がおこなう、その時、他の選手はコート内に位置しなければならない。
- サーブは主審のホイッスルの後、5秒以内に打たなければならない。(打たないと、反則になります。)
- サーブ時は、ラインを踏んでも良いが、踏み越えてはいけません。(足の一部がラインを踏んでいれば、踏み越えたことになります)
- サーブ時は、サーバーの足の一部は床面に付けていなければならない。(ジャンプサーブ禁止)
- サーブはネットインに限り2本までとする
- サーブは、サーブ権が移動するまで1人が連續して行う。



イン(セーフ)アウトの判定

- ボールのイン(セーフ)アウトの判定は、ボールがラインに触れているかどうかで判断します。ボールがライン端にかかっていればイン(セーフ)となります。

(判定はあくまで人の目で見るものであるため、審判の判定には真摯に従うこと。)



打球

- 打球は、3回(1回、2回は不可)で相手コートに返します。
- 捕球は、ウエスト(腰)から上の部分であれば、どこで打ってもかまいません。
- ボールは同時であれば、2箇所以上の部分にあたってもかまわない。ただし、静止(ホールディング)してはいけない。
- 1人の競技者が、2回連続(同時以外で)でボールに触った場合、ドリブル(反則)になります。
- 同じチームの2人以上の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回のプレーとし、どちらが続けてプレーしてもドリブルにはなりません。
- ボールはネットの外側を通過しても、ネットより高ければよい。

反則

- オーバータイムス … 同一チームで4回以上ボールをプレーしたとき。
- ホールディング … ボールを受け止めたり、ボールが体の一部で静止したとき。
- フットボール … ボールがウエスト(腰)よりも下に当たったとき。
- ドリブル … 同一競技者が続けてボールに触れたとき。
- タッチネット … 競技者がネットに触れたとき。
- オーバーネット … 手などがネット上をこえて、相手のコート上でボールに触れたとき。
- インターフェア … ネットの下から、相手コートに体が出たとき。(センターラインは踏んでもかまいませんが、踏み越えてはいけません。)

タイムアウトと選手交替

- タイムアウトは各チーム1セットに1回取ることが出来ます。時間は20秒以内です。
- クツひもの締めなおし、競技者が負傷した場合のタイムアウトは審判タイムとなるので、チームのタイムアウトの回数には数えません。
- 選手全員のローテーション制のため選手交替はありません。負傷等で退場の場合は残りの競技者で続け、3名以下となつた場合は失格とする。